



*F u - Z i n*



# 第5号

平成15年11月発行

「第3回  
祭り童子あつまれ!  
楽文コンテスト」  
受賞作品発表号

# 「第3回 祭り童子集まれ！ 楽文コンテスト」 各賞受賞作品発表!!

## シティ情報ふくおか賞

- 「はじめてのやまがさ」  
福岡海星女学院付属小学校1年/太田 知宏
- 「男になりたい」 博多中小学校1年/小島 未夢
- 「ヤアーッというかけ声とともに」  
愛宕浜小学校5年/古城 智也
- 「山笠に初めて出て」  
西高宮小学校5年/中堂 園 賢一
- 「山笠の暑くなる夏」博多中学校1年/内田 千遙

## NPO博多の風賞

- 「博多と山笠」 博多小学校6年/片平 貴緒
- 「大切な宝物」 博多小学校5年/上野 敦子
- 「迫力の博多祇園山笠」博多中学校1年/青木 美樹
- 「一日だけでも」 博多中学校1年/原田 亜希
- 短歌部門 博多中学校2年/瀬戸 亮平

## 博多祇園山笠振興会賞

- 「オッシュョイ博多祇園山笠」  
博多中学校1年/井上 涼介
- 「子供山」 博多小学校6年/出口 那津実
- 「みんなでオイサ!!」 博多小学校6年/藤山 結愛
- 短歌部門 博多中学校2年/松崎 千鶴
- 「山笠のにおいの男達」博多小学校6年/田中 成美

## 毎日新聞社賞

- 「おっしょいやまがさ」田島小学校3年/安部 誠人
- 俳句部門 博多中学校3年/原 顕子
- 「はじめての山笠」 南当仁小学校3年/諸岡 郁
- 大好き山笠 博多中学校1年/木原 万里佳
- 「もう一度見たい山」原北小学校3年/原田 紘太郎

「博多祇園山笠振興会賞」

「オッシュョイ

博多祇園山笠」

博多中学校一年

井上 涼介

七月九日。その日から、僕の若手としての新たな年が始まった。山笠の期間は、九日から十五日までである。今年から、若手の僕は、山笠をかつくことができる。期待と、不安が続く毎日だった。

九日のお汐い取り、宮崎宮のお汐を取りに行く、道中は暑かったが、その日から山笠が始まるということ、体でひしひしと感じていた。

流れ昇き、今日から山につくことができる。気持ちが高まっていった。ついに山が走り出す。最初は、棒ぜりが激しいので、なかなか入れない。だんだんペースが落ちてきた。今がチャンス、そう言い聞かせてはいるものの、怖さのあまり、体が動かない。だけど、先

輩の助けがあつて、入ることが出来た。楽しかった。初めて、味わう快感に、僕は心を打たれた。またかつぎたいと思った一日だった。

三日目朝山、そして、四日目に追い山ならしがあつた。

四日目の追い山ならしでは、初めて、櫛田入りをした。そして、全コースのタイムが、昨年よりも少し速かった。うれしさを感じた。

五日目、集団山見せ。今日も、櫛田入りをした。昨日よりも、タイムは縮まった。日に日にタイムが縮まっていくことが、みんなの気持ちの高まりだと思った。追い山の日、もっと一致団結できればいいと思った。

六日目、流れ昇き、追い山までの、最後の調整、今日は、たくさんかつぐことが出来た。

そして、追い山。今日が、今年最後の日、気合いが入る。櫛田入り、タイムは、同じくらいだった。全コースのタイム、去年よりおそかった。悔しかった。

僕は、今年、若手として、山に入り、かついだ。たくさん新しいことを学び、そして身につけた。また来年も山がある。自分が、今度は、教える場となつて、山をかく、僕はこういう関わりが、人と人をつなげ、山をひきたたせるんだと思つた。来年また、男となつて、七月を迎えたいと思う。

「博多祇園山笠振興会賞」

「子供山」

博多小学校六年

出口 那津実

私の山笠の感想は「よくあんな重いものをついで走りまわれるなあ」です。最も、私に根性がないからそういう感想になるのかも知れませんが、それにしても、私より下の学年でも、朝早くから元気のいいことだなあと、つくづくただ感心してしまいます。

私がついている山笠への思いは、このように博多もんとして、情けないもので

すが、今年ほんの少しちがうかもしれません。それも、子供山に限ってですが。

なぜかというのと、今年の山にのつている人形は、私達六年生の手で作つたものだからです。もちろん、様々などころで、先生方にも手伝っていただきましたが、思っていた以上にはく力のある人形になりました。

人形作りは、衣装・胴体・頭の三つのグループがあつて、私はその中で胴体のグループでした。一番人数も多く、やるのがなごうなかんじがしましたが、米のふくろを、竹ひこで作られた骨組みにはるために水につけたり、筋肉を紙ぶくろにシュレッダーのくずをいれたもので作つたり、いろいろとやることはありました。楽しい作業でしたが、交代制だったので、今思うと少しずつできていくところが見られなかったのが残念です。

あつという間に人形はできあがり、私達を見下ろしたのは、勇ましい姿の金太

郎でした。おもわず「おーっ」と言つてしまいました。

そういうわけで、今年の子供山は少しちがうのです。こういうことを書きながら、私は子供山を見に行つていませんが、新聞に出るほどだし、新記録も出していたので、すごかつたんだろうなと思います。次からも、男子たち、がんばつて下さいね。

「博多祇園山笠振興会賞」

「みんなでオイサ!!」

博多小学校六年

藤山 結愛

祭りだ 祭りだ  
オイサ オイサ  
いっしょに山を  
かつごうじゃないか  
いっしょに博多の町を  
かけめぐろう  
みんなの心をひとつにして  
応援する人も かつぐ人も  
みんないっしょに  
さあ オイサ!!

「博多祇園山笠振興会賞」

「短歌部門」

博多中学校二年

松崎 千鶴

長ハッピを着ている男子  
いつもより  
大人に見えて  
ちよつとびっくり

「博多祇園山笠振興会賞」

「山笠のにおいの男達」

博多小学校六年

田中 成美

ウチの家族の男達は、毎年7月になるとのどがかれるような声を出し、かたは赤くなつている。それから水のおいをして帰つてくる。でも、そのにおいからは、山笠に出ないにおいから、山笠においがする。それは、ウチがねている間「オイサ、オイサ!」と一生けん命、山笠をかついで力をだしきつた様なおいがある。

また来年も、このにおいがするのかなあ。

「毎日新聞社賞」

「おつしよいやまがさ」

田島小学校三年

安部 誠人

ほくは一年から、山がさにてでいます。ほくが走る山は、かざり山で、しかけがあつて、まい年、りゅうやおにの口からけむりがでてすぐくかつこいいです。ほくたちは、先ばしりで、せいの道の回りははしる事ができます。おきやくさんがたくさんみているので、すぐきんちようするけど楽しいです。大人が大きな声で「おつしよいやまがさ」と、元気な声でほくたちも大人に負けないように「おつしよいやまがさ」と、大きな声をだして走るとすぐくおもしろいです。らい年の山がさもせつたいです。

【俳句部門】

博多中学校三年

原 顕子

山笠 終わりに

ひとかわむけた  
男達

「はじめての山笠」

南当仁小学校三年

諸岡 郁

本番、山笠早く起きた  
こんな早い初めでだ  
おしりを出すのははずかしい  
着がえるときもはずかしい  
山をみたらチョーでかい  
山の重さ、2・5トン  
真夜中なのに人いっぱい  
走るのまつめんどくさい  
ほくも山をもちたいな  
山をもつたいへんそう  
がんばって走ったよ  
水かけられてさむかった  
さむかったから水よけた  
こんどはまね木もちたいな  
朝やけの空きれいだった

「大好き、山笠！」

博多中学校一年

木原 万里佳

博多祇園山笠、これは私  
がすごく大好きなお祭りだ  
す。

でも、今まで一度もでた  
事がないし、ごりよんさん  
のお手伝いもした事ありま  
せん。おまけに自分の住む  
神屋町には流がありません。

今は、山笠がすごく大好

きで、小さい頃に山笠にで  
ておけば良かった、今でも、  
山笠にでたいと思う事が何  
度もあります。7月になり、  
水はつびをきた人とすれち  
がうと、誰を見ても「うわ  
あー、かっこいいー」と思  
うけど友達が、「山笠すごい  
楽しいよー」とか「今日ご  
りよんさんのお手伝いせな  
いかん」とか言っているの  
を聞くと、すごく悲しくな  
り、泣きそうになります。  
だから、この季節になる  
と、凄くうれしいけど、半

分、すごく悲しくなります。  
というか、悲しくなるほう  
が多いです。

「何で、女子はでれんとかい  
な?」「私はどうすれば山笠  
のお手伝いとかできるとか  
いな」「やる気のない男子と  
どうにかして山笠の時だけ  
変われんかいな」追い山の  
あとは特にこういう事をず  
ーっと考えています。

自分でも何でだか分かり  
ません。自分がほぼ毎年で  
ているとんたくより、でた  
ことのない山笠に何でここ  
まで執着してしまふのか。

去年からずっとそう思い  
続けながら今日も追い山を  
見ました。まわりどめに行  
きドキドキしながら山がく  
るのを待っていました。

色々な流の人が一生けん  
命山を歩いて走っています  
た。見送りの台上りの人が  
最後の直線に入り、てっほ  
うを回して声をかけていま  
した。ラストスパートで勢  
いよく勇壮にかけて行く男  
の人はやっばりかっこいい  
し、とても強そうに見えま  
した。

そして今年も15日間の山

笠が終わりました。これか  
ら夏がはじまります。私も  
山笠のお手伝いを来年でき  
るようにどうにかします。  
もう来年の山笠が楽しみで  
す！大好き山笠！

「もう一度見たい山」

原北小学校三年

原田 ひろ太郎

七月十四日の夜十一時に  
起きるのが、わくわくして  
心ぞうもドクン、ドクン  
ンといって、あまりねむれ  
ませんでした。

ぼくたちが出る山は、八  
番山の上川ばた通りです。  
山の重さ二・五トンもある  
そうです。だけどそれをか  
いた人は、かたがいたかつ  
たと思います。

二年生の時は、水をかけ  
られるのがいやでした。だ  
けど、何回もかけられるた  
びに、だんだん楽しくなり  
ました。  
山がさがおわり、家に帰

る時、山をかたずけてるの

を見ました。おに以外すべ  
ての人形がなくなっていま  
した。

「来年は、どんなかざりの山  
になるのかな。もう一度見  
たいな」と言う気持ちが出  
てきました。今からすごく  
楽しみです。

「はじめてのやまがさ」

海星小学校一年

おおた ともひろ

はじめてやまがさときいたと  
き、(やまがさってなんだらう)  
と、ぼくはおもいました。ぼく  
は、きよねん、なごやからふく  
おかにきました。だから、やま  
がさというおまつりのことは、  
しりませんでした。

なごやのおじいちゃんが、む  
かしおしごとでふくおかによ  
きていて、やまがさにでたか  
たけれどでられなかったおはな  
しをしてくれました。それでほ  
くは、だんだんできるきになり  
ました。  
7がつになって、くしだじん

じゃにおまいりして、おまもりをいただきました。それから、かみかわばたしようてんがいに、やまがさでいるものを、かいにいきました。おみせにあつたしゃしんをみて、こんなかっこうをするのかと、びっくりしました。でも、じゅんぴがそろって、もつとがんばるきもちができました。とくに、じかたびはかっこいいとおもいました。

おいやまならしは、せいどうにはいったとき、たくさんのひとがみていて、おどろきました。おみずをいっぱいかけられて、さむいけど、がまんしてはしりました。おいやまが、とてもたのしみになりました。

おいやまのひは、よるのおでかけで、ときどき、わくわくしました。ほくたちのばんがくるころには、あさやけがとてもきれいでした。どうろでとてもたくさんのひとがみていて、こんなにゆうめいなおまつりなんだとわかりました。ほくは、いっしょうけんめい。おおきなこえをだしてはしりました。うまくできて、おもしろかったです。かいさんのあと、くしだじん

じゃでおみくじをひいたら、だいきちがでて、ものすごくうれしかったです。ほくは、はしることがだいすきなもので、やまがさはほくにむいていとおもいました。ほくは、6ねんせいになって、まねきもてるまで、がんばります。そして、おとなになったら、やまをかいてみたいです。

おしごとがやすめないのに、ほくといっしょにはしってくれたおとうさん、ありがとう。

「シテイ情報ふくおか賞」

### 「男になりたい」

博多中学校一年

小島 未夢

みんなが楽しみにしていた博多祇園山笠が始まりました。私は、七月十五日の追い山を友達と三時起きで見に行きました。だけどそれでもすごい人数でした。だからやっぱり博多の人達や他の人達も山笠を楽しみにしているんだなあと思いました。今日の追い山は、すこく迫力があり見えて

とても楽しかったです。そのあとには山くずしもありました。走っているときは違ってやっと終わった！という感じでそれも迫力があつてすごかったです。

山笠を見るのもいいけど、山に出てその楽しさとかを一回でいいから味わいたかったなと思いました。なぜかというところは、ずっとこの博多にいたのに一回も出たことがなかったからです。だから女に生まれたことは山笠の時期はいやだなあと思つて男にうまれたかったなあと残念に思つてます。

「シテイ情報ふくおか賞」

### 「ヤアーツという

かけ声とともに」

愛宕浜小学校五年

古城 智也

「ヤアーツ」

というかけ声とともに、山が動き出した。それと同時に僕は走り始めた。ただ前に進む事だけを考えていた。八番山上川端流が僕達の

流だ。この流は、唯一の動く飾り山として有名だ。昔は、今の飾り山より高い山が昇き回っていたが、路面電車の架線が邪魔になって、大正時代から飾り山と昇き山に分かれたそうだ。暗闇の中、鬼の顔と切り落とされた手が不気味に光つて見えて、まるで、今にも動き出しそうだった。山をかつ

ぐ大人の人達の顔も真剣で、鬼と同じような、怖さと、威圧感を感じた。僕達子供役目は先走り、山の前を走り山を導いていくという、簡単だけれども重要なものだ。もし、だれかがこければ、大きな山にひかれるのだ。うっかりしたり、とまどったりしている暇はない。でも、一晩中起きていたので、待っている間、とても眠たいし、友達といしゃべって、緊張感がなくなったりすると、いきなり、どこからか冷たい水をかけられる（水は勢い水という）。

いよいよ櫛田入りだ。今から、山が境内に入つて出

てくるまでのタイムを競い合う。

「十秒前…」

「五秒前…」

櫛田入りする時間が近づいてきた。そして、

「ドーン」

という太鼓の音。櫛田入りの合図だ。入つてみると、たくさんの人が棧敷席にいるのが見え、大きな歓声も聞こえた。ほくは、だれにも負けないくらい真剣だった。

「オイサ、オイサ」

歓声に負けないくらい大きな声を出し、走った。そのまま大通りに進んで行った。途中、鬼が煙を吐いたり、山が、伸び縮みしたりする度に、

「ワアーツ」

という歓声が上がった。

山を商店街に戻す頃には、すっかり夜が明け、暗闇も青空に変わっていた。最後に、祝いめでたを歌って、今年の山笠が終わった。

## 「山笠に初めて出て」

西高宮小学校五年

中堂 賢一

ぼくは今年初めて山笠に出ました。八番山笠に草が江ヤングラガーズの友達といっしょにできました。さいしょは子ども山笠に出るのかなと思っただけで山笠に行きませんでした。しめこみとはっぴに着がえおわって長く待ちました。そして山の所に行くことになりました。

行ってみるとでっかい山がありました。その山の近くに大人の人が同じようなかっこうをしている人が子ども3、4倍くらいいました。よこた先生が走りはじめる前に、

「絶対ころぶなよ」

と言いました。どうやら山笠の先とうを走るようです。

「ドン」

と太鼓の音がなってみんな走り始めました。

ぼくもみんなといっしょ

に走り始めました。走り始めると水をかけられました。水はとても冷たかったです。体がいつきに冷えはじめました。でも走っているからちよつとずつ冷えがおさまってほつとしました。走るきよりが短くて楽だったけど水をかけられたり、山の形がかわつたりいろいろまじったことのない体験でもしろかったです。

十五日の夜、十二日の追い山ならしのように着がえて山前まで行きました。十五日はまっくらの中にあかりがたくさんあつておもしろそうなんふんいきでした。でも動き出すまでけっこう時間があつてあきてしまいました。夜明けにちかづくときと山が動きはじめました。十五日は十二日より見ている人がたくさんいました。山の前を走っている後ろから

「シューシュー」

とうるさい音がしました。なんとかがざりの口からけむりがでていてびっくりしました。ほかの山を見たとき

けむりが出ていなかったの特別な山なんだなと思いました。

走りおわって家へ帰ってテレビのニュースを見るとどうやらぼくたちの山は二トンあつたそうです。それもびっくりしました。追い山ならしと追い山と両方だけと両方ともすごく楽しかったです。

「シティ情報ぶくおか賞」

## 「山笠の暑くなる夏」

博多中学校一年

内田 千遥

七月十五日、山笠のクライマックスの日。各流の町内は、十四日の夜からにぎわっていました。

私が山笠を見る立場になるのは二回目、それまでは山笠に出ていました。山笠に出ている時も楽しかったけど、見て応援する方になつて、なおらいの手伝いをしたりするのとても楽しいことに気づきました。だけど中一になつて、部

活などがあつたりして山笠が見れない時もたくさんありました。それでも、部活がなかった時に見える山笠は、少ししか見れなかつたけど、大きな緊張感を感じました。そして改めて、山を昇る男たちはカッコいいと思えました。

十五日の追山の日。私はすべての流を見るために、朝四時に起きました。テレビで一番山の中州流の櫛田入りを見て、山笠が通る道にいそいで行きました。2、3分もすれば、むこうのほうから

「オイサツ、オイサツ」

の音が聞こえてきます。そして、前走りの子供たちがやってきて、昇き山が近づいて来ました。勢い水をあびせられた昇き山はキラキラと光つてとてもキレイでした。

全ての流の山を見たけれど、どれもみんな男たちが勇ましく、かっこよかったです。自分もこのまま走り出してしまおうかと思うほどでした。山笠に出れない

のはとても悔しいけど、ガマンしてみんなの応援をするのがとてもおもしろくて、楽しい!!と感じるようになりました。

今年もあつというまに山笠の季節は通り過ぎてしまったけど、その短い期間の中で、とても楽しむことができました。

また来年の山笠を、私は楽しみにしています。山笠は博多の町にずっとあり続けて、人々を楽しませてくれると思います。

「NPO博多の風賞」

## 「博多と山笠」

博多小学校六年

片平 貴緒

大好きです。山笠。

博多の夏を感じます。山笠。

私も出たい、山笠。

太陽より熱い、山笠。

みんな好きです。山笠。

博多の伝統、山笠。

感動もくれる、山笠。

博多が一つになります。

山笠。

「大切な宝物」

博多小学校五年

上野 敦子

「おっしょい、おっしょい」  
博多の町にも山笠の日、7月  
がきた。

私は今年、山笠に出られな  
かった。でも、男の子達や大  
人の人達のがんばりを見に行  
った。そこは、みんなが歯を  
くいしばって、一生けん命山  
をかついで動かしていた。小  
さい子達も山の前を、力いっ  
ぱい足を動かして走ってい  
た。

その時、とつぜん三年生の  
ころを思い出した。私は、三  
年生のころ山笠に出た事があ  
る。一昨年からの迫力は変  
わっていないかった。「おしお  
いとり」の時も参加した。山  
は動かないが、みんなの気合  
いはいつもと変わらない。こ  
の「気合い」や山を動かす時  
に必要な「協力」は、山笠の  
自まんでできることです。こ  
の「気合い」や「協力」は、

博多の町の7月にしか見れな  
い大切な宝物です。

つまり、祭りは、出る人も  
応えんする人もみんなで楽し  
める、大切な日だと思えます。  
そして、みんなの心が一つ  
になり、人と人との関係が深  
まっていく日だと思えます。  
そこが祭りの楽しさです。

【NPO博多の風賞】

「迫力の博多祇園山笠」

博多中学校一年

青木 美樹

「オイサ、オイサ」

今年もまた、まちにまった  
山笠の季節がやってきまし  
た。私は、この博多祇園山  
笠が大好きで毎年見に行っ  
ています。

私は、小さいころは山笠  
のことをほとんど知りませ  
んでした。私の町内は流が  
なくて、家の人もだれも山  
笠に出ていないのであまり  
山笠とは関係がありません  
でした。でも、小学校に入  
って博多のお祭などについ  
ての学習をしていくうちに、

山をかつぐ人の気持ちやそ  
の人たちを支えているごり  
よんさんや地域の方々のこ  
となどがわかるようになり  
ました。

こんなに迫力があつて  
人々を夢中にさせる山笠を  
つくっているのは、博多の  
人たちの心が一つになって  
いるからだと思います。

私も、将来はごりよんさ  
んになって山笠をもっとす  
ばらしいものにしていきた  
いです。

【NPO博多の風賞】

「一日だけでも」

博多中学校一年

原田 亜希

今年の山笠は、部活のた  
めほとんど見る事ができま  
せんでした。だから、お祭  
りが大好きな私は、早朝の  
追い山だけでも見たいと楽  
しみでした。

母が炊き出しで、夜遅く  
から準備をはじめたので、  
私は、トウモロコシの皮む  
きをしました。そして、追

い山が始まる少し前、四時  
半ごろ、母と詰め所へ向い  
ました。

山笠に出ている男の人た  
ちの帰りを待って町内のご  
りよんさんは、みそ汁、え  
びフライ、おきうと等、た  
くさんの料理を、作ってい  
ました。そこで、私はみそ  
汁の具をお碗に分ける仕事  
をたのまれました。つかれ  
て山から帰ってきた男の人  
たちの顔が浮びました。い  
ろんな手伝いをしているう  
ちに、一番山の中洲流が、  
詰め所の前を通りました。  
次々に山が通ります。

「あ。次は六番やけん、大黒  
やね。ちよつと見らないか  
ん」  
と、仕事の手をとめ、大黒  
流を、みんなで見ました。  
櫛田入りのタイムと全て  
のタイムを聞いて、詰め所  
は、わっと、にぎやかにな  
りました。

今年の山笠は一日だけし  
か見ることができませんで  
したが、一生けん命山をか  
いている男の人達をかげで  
ささえているごりよんさん

たちの思いや、大変さを、  
体で感じとることができ、  
いつもと違う山笠を味わい  
ました。

来年の山笠への新たな思  
いをもちながら、博多はな  
にもなかつたようなはずけ  
さに戻っていきました。

【NPO博多の風賞】

「短歌部門」

博多中学校二年

瀬戸 亮平

山が来た  
おいさおいさと  
さけび声  
セミとはり合い  
のどがガラガラ

## NPO博多の風のあゆみ

|          |  |
|----------|--|
| 平成 10年9月 | 任意団体「博多の風」設立<br>代表：大庭宗一  |
| 同年10月    | 第1回博多の風フォーラム開催<br>講師：松本龍氏（衆議院議員）   |
| 11年4月    | 第2回博多の風フォーラム開催<br>講師：倉田 真氏（毎日新聞編集局長）   |
| 同年10月    | 第3回博多の風フォーラム開催<br>講師：沢田幸二氏（九州朝日放送アナウンサー）   |
| 12年4月    | 第4回博多の風フォーラム開催<br>講師：坂口卓司氏（RKB毎日放送アナウンサー）  |
| 同年5月     | 大庭宗一と博多の風の仲間たち監修<br>「山笠の風」出版<br>同出版記念パーティ開催  |
| 同年5月     | NPO（特定非営利活動法人）認証取得<br>理事長：大庭宗一   |
| 同年6月     | NPO博多の風として登記   |
| 同年10月    | 第5回NPO博多の風フォーラム開催<br>講師：緒方邦博氏（プランニング秀巧社社長）   |
| 同年11月    | 山笠文流会館建設提言書、福岡市長へ提出  |
| 13年4月    | 第6回NPO博多の風フォーラム開催<br>講師：後藤豊彦氏（福岡銀行相談役）   |
| 同年5月     | 作文コンクール<br>「第1回 祭り童子集まれ！素文コンテスト」<br>実施（5/1～7/31）   |
| 同年7月     | 「NPO 博多の風フォーラム」<br>福岡県21世紀記念事業認証取得   |
| 同年10月    | 福岡県21世紀記念事業<br>第7回NPO博多の風フォーラム開催<br>講師：後藤久義氏（博多祇園山笠振興会会長）<br>永吉和幸氏（毎日新聞社福岡総局長）<br>緒方邦博氏（プランニング秀巧社社長）<br>「第1回 祭り童子集まれ！素文コンテスト」<br>優秀作品表彰式 |
| 14年4月    | 第8回NPO博多の風フォーラム開催<br>講師：安達一成氏（毎日新聞社記者）   |
| 同年4月     | 「博多の風ホームページ」開設   |
| 同年5月     | 第1回 クリーン作戦開催   |
| 同年6月     | 「探訪!! 博多祇園山笠 追山コース」開催  |
| 同年7月     | 作文コンクール<br>「第2回 祭り童子集まれ！素文コンテスト」<br>実施（6/1～9/2）  |
| 同年10月    | 「博多の風広報誌：風人」発行   |
| 同年11月    | 第9回NPO博多の風フォーラム開催<br>講師：高橋慶彦氏（元プロ野球広島東洋カープ）  |
| 同年11月    | 第2回 クリーン作戦開催   |
| 15年4月    | 第10回NPO博多の風フォーラム開催<br>講師：永守良孝氏（RKB毎日放送株式会社 取締役）  |
| 同年5月     | 第3回 クリーン作戦開催   |
| 同年6月     | 「第2回 探訪!! 博多祇園山笠 追山コース」開催<br>作文コンクール<br>「第3回 祭り童子集まれ！素文コンテスト」<br>実施（6/1～9/2）   |

### NPO博多の風事業概要

- 博多の町の伝統文化を次世代に引き継ぐ啓発事業
- 「博多の風フォーラム」の定期開催
- 博多の町の地域振興活動
  - 「探訪!! 博多祇園山笠 追山コース」事業
- 博多の町の地域清掃活動「クリーン作戦」事業
- 「祭り童子集まれ！素文コンテスト」事業
- 山笠山台の技術継承活動事業
- 博多祇園山笠振興に関する活性化事業のお手伝い
- 青少年スポーツ振興に関する支援・協力事業

NPO特定非営利活動法人

# 博多の風

〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16 -302

TEL&FAX 092-263-7188

E-Mail npkaze@jumo.ocn.ne.jp

URL <http://hakatanokaze.jp>

題字：新井光守

